

Q&A

胃食道接合部に高度狭窄をきたした若年男性の1例

解答：

1. 好酸球性食道炎による癒痕狭窄
2. 食道拡張術，ステロイドスプレー内服，PPI内服

解説：

好酸球性食道炎とは、食道上皮への好酸球浸潤を主とする慢性のアレルギー疾患である。40歳前後の男性に多く見られ、約半数の症例でアレルギー疾患の合併が報告されている。臨床所見としては、嚥下障害、胸焼け、心窩部痛、つかえ感などが多く、血液検査で好酸球増多やIgE高値を呈することがある。内視鏡所見では、輪状溝、白斑、縦走溝が特徴的であり、慢性炎症による粘膜下層の線維化の結果、狭窄をきたす。診断確定には病理組織所見が必要であり、食道上皮表層への多数の好酸球浸潤が特徴的である (Figure 2)。複数箇所からの生検により感度が上昇する。

好酸球性食道炎の治療¹⁾は、まずPPI投与を開始する。PPIが無効であった場合に好酸球性食道炎と診断がつき、ステロイド局所療法を追加する。

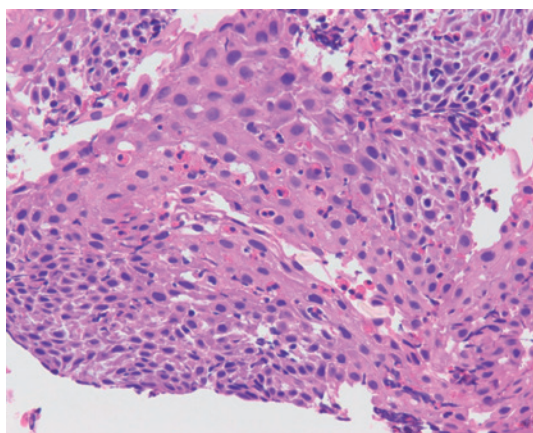


Figure 2. 病理組織所見：食道粘膜表層を主体として多数 (50個以上/HPF) の好酸球浸潤を認める (H&E, 400倍)。

本症例のように高度狭窄を呈する場合は拡張術を施行する。日本では好酸球性食道炎に対する内視鏡的拡張術の報告はほとんど見られないが、海外では多数報告されており、その中で好酸球性食道炎における内視鏡的拡張術の穿孔率は0.059～0.1%^{2)~4)}と低く、安全な処置と報告されている。本症例は拡張後も約半年間外来加療を継続したが症状の再燃は認めず、現在は無加療で経過観察をしている。

参考文献：

- 1) 好酸球性食道炎/好酸球性胃腸炎の疾患概念確立と治療指針作成のための臨床研究班：好酸球性食道炎/好酸球性胃腸炎の診断指針と治療指針. 2015 ee.shimane-u-internal2.jp
- 2) Bohm ME, Richter JE : Review article : oesophageal dilation in adults with eosinophilic oesophagitis. Aliment Pharmacol Ther 33 ; 748-757 : 2011
- 3) Jacobs JW Jr, Spechler SJ : A systematic review of the risk of perforation during esophageal dilation for patients with eosinophilic esophagitis. Dig Dis Sci 55 ; 1512-1515 : 2010
- 4) Dougherty M, Runge TM, Eluri S, et al : Esophageal dilation with either bougie or balloon technique as a treatment for eosinophilic esophagitis : a systematic review and meta-analysis. Gastrointest Endosc 86 ; 581-591.e3 : 2017

本論文内容に関連する著者の利益相反

：清水勇一（第一三共株式会社，アステラス製薬株式会社）

出題：石川 麻倫（北海道大学病院

光学医療診療部）

清水 勇一（ ）